



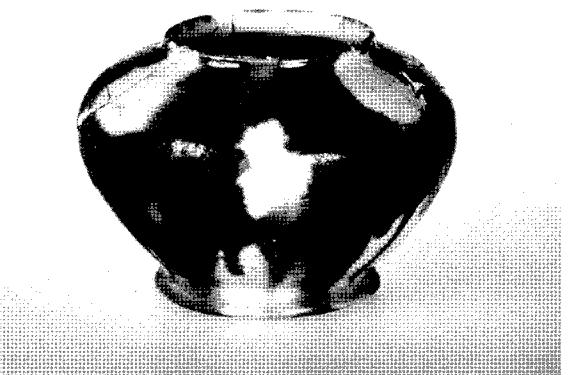
⑩ 鉄造阿弥陀如来坐像

## 芳賀・桂萱の文化財めぐり

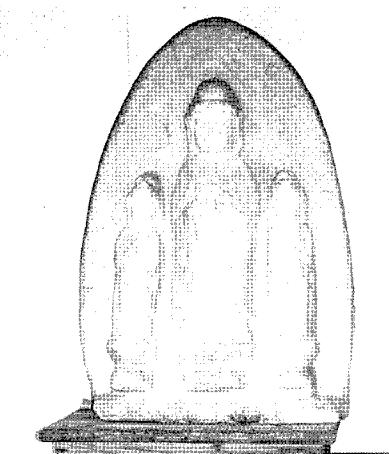


前橋市教育委員会

文化財保護シンボルマーク



⑦ 奈良三彩小壺



⑯ 石像薬師三尊立像

### 芳賀・桂萱の歴史

赤城の山ふところに抱かれたこの地は古くから人々のくらしのあとが多くみられます。

旧石器がまとまって見つかった鳥取福蔵寺遺跡、縄文時代や稻作りをはじめたころのくらしがわかる芳賀東部団地遺跡の集落、集落の長（おさ）をほうむつたオブ塚や新田塚、大日塚などの古墳等注目される遺跡があります。

奈良・平安時代の集落が発見された芳賀東部団地遺跡、奈良三彩小壺を出した檜峯遺跡など平安時代の文献「和名抄」にある「藤沢郷」とみられる遺跡もあります。東北地方の多賀城からは「桂草郷」の文字が出来て、この桂萱との関連がうかがえます。

また、善勝寺の阿弥陀如来坐像は銘文から仁治4年（1243）の鉄仏（鎌倉時代）で基準資料として貴重な文化財です。中世になると武士が防衛のため屋敷を堀で囲った城砦が造されました。領城はその代表的なもので市内の中世の城の中では最も残りの良いものです。

このように、芳賀・桂萱地区には貴重な文化財がたくさん残されていて人々のくらしのありさまをうかがい知るようすがとされています。

### 問い合わせ先 文化財保護課

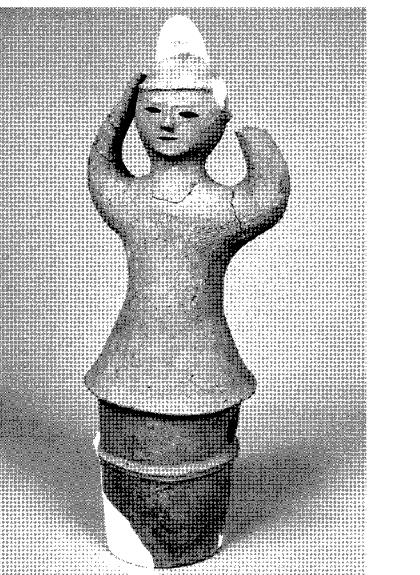
前橋市三俣町二丁目10-2

TEL 027-231-9875

FAX 027-231-9862



⑯ 上泉の獅子舞



⑤ 墳輪・踊る男子像

### 問い合わせ先 文化財保護課

前橋市三俣町二丁目10-2

TEL 027-231-9875

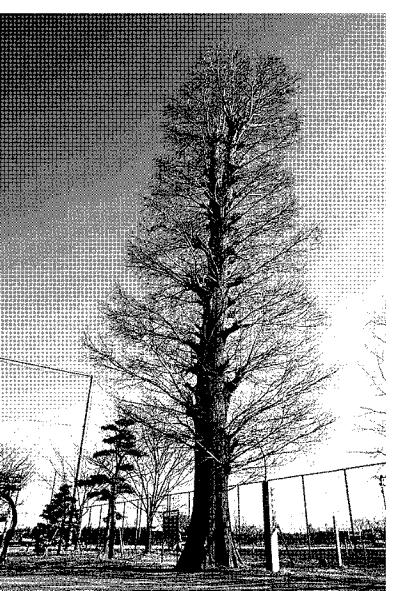
FAX 027-231-9862



⑪ 新田塚古墳



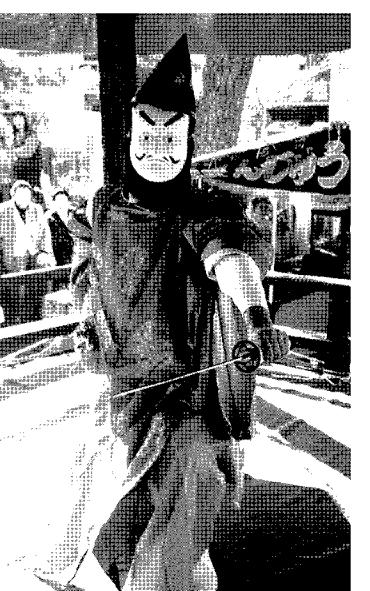
⑫ 上泉郷蔵



⑬ 前橋高等学校のラクウショウ



⑭ 宝禪寺異型板碑



⑮ 片貝神社太々神楽

### 芳賀・桂萱の文化財を訪ねて

前橋市の北部とほぼ中央部を占める芳賀・桂萱地区には、縄文時代・奈良・平安時代の埋蔵文化財のほか、中世から近世に至る貴重な文化財があります。

#### ① 檜城跡 檜町字城岸

この城は、中世の城で別名を田中城といいます。南北に6つの郭を並べる並郭式の丘城で本丸は小さく南北40m、東西70mにすぎませんが、その北の三つの郭は大きく、南北500m、東西100mほどの広がりがあり、部分的に大きな堀跡が確認されています。

文書には、北条安芸守高定の家臣、田中大式の古城と記されています。高定は、長尾景虎（上杉謙信）の家臣で厩橋城主北条高広の父です。市内の古城の中でも遺構が良い状態で残っている城の一つです。

#### ② 小林家住宅 小坂子町383

小林家住宅は、築後150年ほどのこの地域独特の赤城型民家です。母屋の他に長屋門、土蔵もあり、江戸時代末期の旧名主屋敷の様子が良く残っており、美しい姿を見せています。

#### ③ 芳賀北部団地遺跡 現在の高花台付近

昭和48～49年度に発掘調査が実施され、縄文時代の住居34軒、土坑配石と平安時代の住居跡227軒、掘立柱建物跡8棟、製鉄跡などが発見されました。

#### ④ オブ塚古墳 (市史跡) 勝沢町420

この古墳は、西北に前方部を向けた前方後円墳で全長35m・幅13m・後円部径18m、高さは前方部2.5m・後円部3.5mの大きさです。石室は、自然石の山石を積んだ横穴式石室で5mの長さがあります。直刀・小刀・鉄鎌・耳環等の副葬品が発見されました。

6世紀の築造と考えられ、芳賀地区では現存する唯一の前方後円墳です。

#### ⑤ 墳輪・踊る男子像 (市重文) 芳賀小学校 勝沢町719

この埴輪は、五代町付近で発見され、現在は芳賀小学校に保管されています。両手をあげて踊る様子は、当時の農夫の喜びの表情があらわされているといわれています。

#### ⑥ 芳賀東部団地遺跡 鳥取・五代町

昭和51～55年度に発掘調査が実施され、古墳～平安時代の住居跡530軒、掘立柱建物跡206棟など大集落跡が発見されました。

#### ⑦ 奈良三彩小壺 (市重文) \*檜峯遺跡・上泉町・五代町

奈良三彩とは、無色透明の白釉と銅の緑釉と鉄の黄・褐釉を用いた三種の色をもつ磁器で中国の唐三彩をまねて作されました。

この小壺は、8世紀のもので昭和56年の発掘調査で竪穴住居から完全な形で発見されました。レプリカが中央公民館に展示されています。

#### ⑧ 芳賀西部団地遺跡 鳥取町

昭和50年度に発掘調査が実施され、縄文時代の住居7軒及び32基の円墳などが発見されました。

#### ※③⑥⑦⑧の遺跡には現在、住宅・工業団地が造成されています。

#### ⑨ 萩窪城跡 萩窪町字屋敷

上野風土記に「東萩窪、古城跡あり。」と記されている平城です。6～7m高くなっている台地の先端に築かれています。広さ東西200m、南北160mで、西寄りに本丸があります。西側の堀が良好に残っており、幅8m、深さ6mに及んでいます。

#### ⑩ 鉄造阿弥陀如来坐像 (国重文) \*善勝寺 端気町337

この仏像は、善勝寺の御本尊で、仁治4年（1243）に造られた鉄仏です。小坂子町で鋳造されたといいう伝えがあります。

高さは約90cm、「上品下生」の印を結んでいます。鉄製ですが、頭と手首より先は銅で造られて、全体の重さは約88kgあります。頭髪は一面の螺旋、顔は丸顔で、衣文が平行の浅い線で美しく表現されています。東日本の鉄仏の中でも最も美しい仏像の一つです。

#### ⑪ 新田塚古墳 (市史跡) 上泉町新田塚2694-2

この古墳は、直径約30m、高さ4.5mの円墳で比較的よく元の形を残しています。北東部の竹やぶには、周堀の跡をはつきりと見ることができます。

まだ発掘調査はされていませんが、石室は横穴式石室と推定され7世紀ごろに造られたものと考えられます。

小坂子町の南部からこの地へかけて続く古墳群の中でも比較的大きく、築造当時の様子をよく伝えるものとして注目されています。

#### ⑯ 正円寺古墳 堀之下町字二子塚380, 380-1

この古墳は、桂萱東小の南西にある全長65mの前方後円墳です。周堀がめぐらされており、南側は正円寺の本堂と庫裏が建てられています。

後円部には横穴式の両袖型石室があり、くびれ部の頂上には、竪穴式の石櫓が造られている6世紀前半の古墳です。

明治時代の初めに発掘され、大刀や歯・骨などが石室内のかめの中から発見されました。

初期横穴式石室をもつ古墳として注目されます。

#### ⑰ 片貝神社太々神樂 (市文無) 片貝神社 東片貝町464-1

この神樂は、祭礼である1月13日と4月第2日曜に五穀豊穗・疫病退散を願つて奉納されます。この里神樂は、明治の初めに總社神社から伝えられ、舞子連の伝承によって正しい格式をもちつづけています。舞子連になるには、片貝生まれの長男で五年間ものきつい練習を必要としました。現在は、保存会の人により伝承されています。片貝神社は、6世紀後半の桂萱大塚古墳（前方後円墳）の上に建っています。

#### ⑯ 女堀 (国史跡) 上泉町・江木町・石関町

平安時代末期、上泉から佐波郡東村国定までの約12kmに、幅25mの大土木工事が行われました。上泉町は、水の取入口だったようです。しかし、この大規模な用水路は通水されませんでした。

#### ⑯ 石像薬師三尊立像 (市重文) 亀泉町317 薬師堂

この石仏は、地元の人々から「化粧薬師」と呼ばれ、昔から病氣平癒を叶えてくれる仏として厚く信仰されてきました。形態は、中尊に薬師如来、脇侍に日光・月光菩薩を配した一光三尊の石造薬師三尊立像の石仏です。石材は安山岩が使われ、肉厚に彫成された半肉彫りの像となっています。総高94cmです。

#### ⑯ 五代大日塚古墳 (市史跡) 五代町214

現在、後円部に該当する盛土が北東部を中心に旧状がうかがえます。前方部とみられる部分は全く削平されていて不明です。出土した大刀、馬具等から6世紀末から7世紀初頭の築造と推定されています。

重文……重要文化財 有民文…重要有形民俗文化財  
無文…重要無形文化財 天記……天然記念物

\*については、ふだん公開されていません。

# 芳賀・桂萱の文化財を訪ねて

芳賀・桂萱  
めぐりコース

記号

○	円墳
□	前方後円墳
△	寺院
开	神社
凸	城跡
□	石造物
合	建築物
⋮⋮	その他
▼	文化財めぐりコース 道しるべ

北コース

(約11.5km)

善勝寺 2.7km オブ塚古墳 2.1km 嶺城跡 1.5km

新田塚古墳 1.5km 萩窪城跡 3.7km 小林家住宅

南コース

(約7.8km)

上泉郷蔵 0.6km 宝禪寺 1.1km 薬師堂 1.2km 正円寺古墳 0.7km

前橋高等学校のラクウショウ 2.6km 片貝神社 1.6km 女堀

